

くすりのしおり

注射剤

2014年08月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ヒスタグロビン皮下注用

主成分：ヒスタミン二塩酸塩 (Histamine dihydrochloride)
人免疫グロブリン (Human immunoglobulin)

剤形：注射剤

シート記載など：



この薬の作用と効果について

アレルギー症状の悪化・慢性化を引き起こす好酸球の浸潤を抑える作用、アレルギーの原因となるヒスタミンの放出を抑える作用およびヒスタミンに対する抵抗力を与える作用などを有します。

通常、アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、慢性湿疹）、気管支喘息に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。喘息発作時、月経直前および期間中、著しく衰弱している。
- ・妊娠、妊娠している可能性がある、授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、成人は週1～2回、小児は週1回、皮下に注射します。
- ・アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患では、3回または6回を目安とし、気管支喘息では6回を目安として注射したあと、効果を見ながらさらに使用期間を決めていきます。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、蕁麻疹、発疹、喘息発作、一次的な鼻症状の増悪、かゆみ、咳嗽、呼吸困難、くしゃみ発作などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・血圧低下、皮膚や粘膜（特に唇、手足の爪）が青紫色～暗紫色になる、呼吸困難 [ショック]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・この薬は、日本で採血された血液が原料となっています。血液を原料とした製剤であることから、ウイルスを取り除く処理を行っており、現在までにこの注射によるウイルス感染は確認されていません。しかしながら、血液を原料としていることによるウイルス感染などの可能性を完全に否定することはできません。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。